Changing the World
Begins with Imagination

想像する
ことで世界は
変わっていく。

サービス業向け

性的マイノリティ
サポート
ハンドブック

熊本市

最近よく聞くLGBTってどんな人たちのこと？

性別は“男性はこう”“女性はこう”と単純に2通りに分けられるものではなく、しぐさや言葉づかい、好きになる性別などにおいて、「性のあり方」は人の数だけバリエーションがあります。「異性を好きになるのが普通」「生まれた時の性別に合わせて生きるのが当たり前」という考えではなく、それぞれの人にとっての「自然なあり様」を認め合うことが大切です。
近年ようやく社会に知られてきたLGBTという言葉は、下記それぞれの頭文字をとった言葉で、性的マイノリティ（性的少数者）を表す言葉の一つとして使われることもあります。

性的指向
好きになる相手の性別

性自認
自分の性別の捉え方

L

LESBIAN
レズビアン
女性として
同性に恋愛感情や
性的魅力を感じる人

G

GAY
ゲイ
男性として
同性に恋愛感情や
性的魅力を感じる人

B

BISEXUAL
バイセクシュアル
異性と同性に恋愛感情や
性的魅力を感じる人

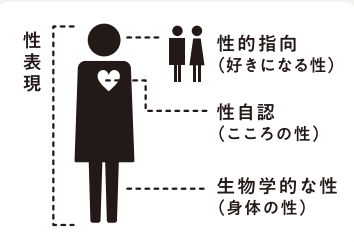
T

TRANSGENDER
トランスジェンダー
出生時に割り当てられた性別と
は異なる性別を生きる人
（性同一性障害者を含む）

「性のあり方」は人それぞれ。

性的指向とは、どのような性別の人を好きになるかということで、性自認（性の自己認識）は、自分の性をどのように認識しているかということ。性的マイノリティは、LGBT以外にも、男女どちらにも恋愛感情を抱かない人や、自分自身の性を決められない人、わからない人などさまざまな人々がいます。

性を構成する要素を知ろう



性別と聞くと身体の性をイメージする人が多いかもしれませんが、一人ひとりが持っている性は、左記の要素が組み合わさっています。個人の性は、それぞれが持つ「個性」。他者が決めつけるものではありません。あなた自身の性についても考えてみても良いかもしれませんね。

違いを知って「個性」を受け入れよう

私の性自認は	私の性表現は
私の身体の性は	**私の性的指向は**

異性・あるいは同性を好きになる人、どちらの性も好きになる人、誰かを好きにならない人。自分のことを男性だと思う人、女性だと思う人、どちらの性別にも決められたくない人…。多様な「性のあり方」を知り、その個性や生き方を尊重しあうことが重要です。

「言えない」から「見えない」ということ。

「性的マイノリティの人に出会ったことがない」「これまで身近にいなかった」という声を聞くことがあります。なぜ、出会わないと思うのでしょう。それは、今の社会では「自分の性のあり様」を示すのはハードルが高いことだからです。性のあり様は必ずしも目に見えるものではなく、「言えない」から「見えない」のです。「本当のことを伝えたら嫌われるのではないか」「バレたらいじめられるかもしれない」…。そんな悩みを抱え、本当の自分を隠して生きている人がいるかもしれないと想像することが大事です。

少年期～青年期

いじめのリスク

- 「男・女らしくない」「気持ち悪い」などのからかいやいじめを経験することがある

自分探し、仲間探しが困難

- 家庭や学校で孤立しやすい
- 悩みや不安の解決に役立つ適切な情報にたどり着けない

青年期～中年期

就職困難、職場での差別

- 見た目と履歴書の性別が異なることなどを理由に、採用されないのではないかと不安になったり、中には採用差別も
- 採用後も、職場でのいじめ、からかい、昇進差別などのハラスメントを受けることがある

もしもの時の法的保障がないかもしれない

- 同性同士で結婚できず社会保障がない
- 入院時に家族として扱われない場合もある

受け入れ体制がなくDVの発見や支援が困難

- 同性間でもDVは起こっている
- 相談のできる環境がまだまだ不十分なため相談ができないまま深刻化しがち

中年期～高年期

自身の老後に対する不安

- ロールモデルが少ない
- パートナーとの法的な保障がなく不安

COLUMN

世界・地域の現状

世界には、同性婚やパートナーシップ法が存在する国、同性愛を犯罪とみなす国、特に法制度が存在しない国とそれぞれです。世界で初めて同性婚が実現したのはオランダですが（2001年）、その後、ヨーロッパ諸国、南米、アメリカ合衆国と、同性婚が法制化される国・地域は広がりを見せています。ちなみにアジアで初めて同性婚が可能になったのは台湾でした（2017年）。

日本では、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が「持続可能性に配慮した調達コード」を発表（2017年）。これは大会開催に関わる企業に対して、組織委員会が遵守を求めているガイドラインで、性的指向・性自認に関する差別禁止が盛り込まれました。また、同性婚が法制化されているスウェーデンとノルウェーは、事前合宿地として九州で初めて「パートナーシップ宣誓制度」を導入した福岡県を選びました。

熊本市でも2019年4月に「パートナーシップ宣誓制度」をスタートし、同年8月に初めて制度が利用されました。

※パートナーシップ宣誓制度とは一方、または双方が性的マイノリティである2人の関係を尊重するための制度。

TAKE ACTION

多様性とは多様な個性。いま、目の前にいる人の背景を想像する。

「多様性を受け入れる社会」とはどのようなものなのでしょう。なんとなく、言葉だけが先行して、イメージが共有できていないように感じませんか？　多様性とは、マジョリティとマイノリティの人がいるという意識ではなく、「特別な人」のためにあるものではありません。その人の生き方や、こう生きていきたいと願っている考え方を、自分とは違う個性として認めて生きていくことではないかと思います。私たちは、顔も、性格も、話し方も、クセも、一人ひとり違う。つまり、誰しもが多様な個性を持っているということです。家族や職場の同僚、友人、先輩・後輩、お隣さん。いま、あなたの目の前にいる誰かが、自分の知らない世界を生きていること。ここに来るまでに重ねてきた人生の背景を、少しだけ想像してみること。それはなにげなく、ささいなことに見えますが、その世界は、きっとどこかであなたとつながっています。

今よりもっとよくするために。

不用意な発言や行動によって、誰かを傷つけてしまうのは残念ですよね。ふだん何気なく使っている言葉が、相手にどう伝わる可能性があるかを想像することが大切です。性的マイノリティの人に限らず、人と人とのコミュニケーションが前提にあるということを忘れないことが大事です。

こんな言葉を使ったり、聞いたりしたことはありませんか？

- あの人って、男なの？　女なの？
- いつまでも結婚しないけど、そっち系なの？
- ここには同性愛者の人とかいないよね？
- レズとかホモとか、生理的に無理
- 同性同士でどうやってセックスをしているの？
- 下（性器）はどうなっているの？

今よりもっとよくするための５つのアクション

TAKE ACTION 1

あなたと世界の間に虹をかけよう。

赤、オレンジ、黄、緑、青、紫の６色からなる“レインボーフラッグ”。これはアメリカで生まれた性的マイノリティのシンボルですが、性の多様性を尊重する意思や連帯を表現するものとして、日本でもよく使用されるようになりました。たとえば入り口や受付、レジなどお客さまの目につくところに設置することで、歓迎の気持ちを示すことができます。時間もお金もかからない小さなアクションですが、「店にフラッグが置いてあるだけでホッと安心する」「泣きそうになるくらい嬉しかった」といった声も上がるほど、歓迎のメッセージが伝わります。

EPISODE

今では、病院や店舗、公共機関などさまざまな場所でフラッグやステッカーが見られます。フラッグを掲げている場所が増えることで、より多くの人が気持ちよく過ごすことのできる対応やサービスにつながっていきます。もちろん、スタッフ全員の正しい理解に向けた教育も大切です。

TAKE ACTION 2

みんなにやさしい、「だれでもトイレ」。

日常生活のなかで不便に感じる場所や場面はさまざまですが、特にトランスジェンダーの方が悩みやストレスを抱えやすい施設はトイレだといわれています。トイレは毎日使う場所で、本人にとっては切実な問題。おもな困りごととしては「トイレに入る際に周囲からの視線が気になる」「注意や指摘を受ける」「男女別のトイレしかなく選択に困る」などがあり、その解決策の一つとして、性別に限らず誰でも利用ができる「だれでもトイレ」の確保があります。このトイレを誰でも心地よく使ってもらえるように、入口に「だれでもトイレ」と表示すると良いでしょう。

EPISODE

特にトランスジェンダーの女性のトイレ問題は深刻です。外出先で緊張感を強いられたり、災害時に直面する課題としても挙げられたりしています。

TAKE ACTION 3

性別に基づくサービスを見直してみる。

ふだん、飲食店や映画館などで何気なく目にする「女性限定」「男性限定」という性別に限定したサービスの文字。中には、サービス対象の性別に見えにくいトランスジェンダーの方がサービスの利用を希望されることもあるかもしれません。そのような場合も、想定して準備しておきましょう。多様な性のあり方を知り、理解することによって、お客さまもハッピーでいられるはずです。また、性別を限定しないサービスを新たに考えるのもいいかもしれません。

EPISODE

男女の組み合わせに限ったサービスを見直しませんか？　「ペア割り」や「カップルプラン」は性別に関係なく利用できるようにすると、より多くの方に喜ばれるのではないでしょうか？

TAKE ACTION 4

自分の受け皿をひろくしよう。

「男性同士・女性同士で旅館を予約したら執拗に関係性を尋ねられた」「同性同士でダブルの部屋を申し込んだら、確認もされずにシングルやツインの部屋に変更された」。実際にそんな経験をもつ同性カップルもいます。余計な詮索をせず、お客さまの希望を優先させましょう。特別扱いをするのではなく、一人ひとりのお客さまとして誠意をもって尊重し、自然な対応を心がけるのがよいでしょう。

EPISODE

カップルといえば異性同士という考え方を見直しましょう。お客さまのなかには、男性同士、女性同士がカップルのこともあります。カップルは、異性同士カップルだけではありません。

TAKE ACTION 5

思い込みを手放してみよう。

たとえばお客さまがプレゼントやお土産を探している際、最初から男性には女性向け商品、女性には男性向け商品をおすすめするという考えは、あなたの中にある「思い込み」です。渡したいパートナーは人それぞれで、お客さま自身が言わない限り、相手の性別はわからないもの。もちろん、ご自分へのご褒美という場合もあります。むやみにプライバシーに立ち入るような詮索はせず、お客さまが求めるものに耳を傾け、必要であれば、よりよい提案をしましょう。

EPISODE

女性同士・男性同士のカップルで指輪を買いにいったとき、特に特別なことを聞かれず、普通に接客してくれて嬉しかったという声もあります。

OTHER TAKE ACTION

熊本を訪れる世界中の人に気持ちよく過ごしてもらうために。

「家族湯」という選択肢があります！

一般的に男湯・女湯で分けられる大浴場は大きな壁となることが多いです。熊本に数多くある「家族湯」にはさまざまなニーズがありますが、男女別の大浴場を利用できない方の選択肢の一つにもなります。一人で入る方や同性同士で利用する方に対し、不必要な詮索をしないことが大事です。また、性別を問いただすなどはやめましょう。

スタッフ教育もしっかりと

世界中には色々な人たちがいて、熊本でもさまざまな人をおもてなしする可能性があることを想像し、スタッフ全員で共有しましょう。

必要以上に性別を問わない

それぞれの性のあり方を尊重する姿勢として、性別を問う必要がない場合は問わないようにしましょう。その場面と機会について、今一度考えてみるのもいいかもしれません。

Changing the World
Begins with Imagination

世界には多様な愛の形、
それぞれの性のあり方があること。
私にとっては非日常でも、
それを日常として生きている人がいること。
あなたがこれからも自然でいること、
当たり前でいることができる
世の中の方が、健全だと思う。
想像すること。
そこから、世界はもっとよくなる。

制作／熊本市
取材協力・監修／
ともに拓くＬＧＢＴＱ＋の会くまもと
（5～6ページを除く）、
くまにじ

※このサポートハンドブックは福岡県発行「おもてなしRAINBOW GUIDEBOOK」の内容を参照し作成しました。